

部会研究の成果と課題

1. 数学的な見方・考え方を働かせるための手立て

	「問い」を生む問題提示のしかけ	指導過程の工夫
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「問い」もち、解決できることが、主体的な学びにつながっていくように感じた。 ・算数、数学の良さ（簡潔・明瞭・一般化など）につながるしかけが大切だと感じた。 ・「見方や考え方を働かせるような問い」とは、どのようなものなのか、改めて考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元構成の見直し、編成、事前に身に付けておくべきこと（知識・技能）を踏まえての指導過程の工夫になると感じた。 ・本時の目標に向け、授業の流れ（発問・板書・考えさせる順序など）を意識するの必要さを感じた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「面白そう」という興味を引くための「問い」に留まることなく、解決の筋道やその時間での目標に迫ることが大切だと感じた。 ・子どもの中に「どうすればできそうか」「これはどうなんだろう」が見える場面の設定が難しいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業だけを切り取って評価することも必要だが、単元全体を通してどのように学ばせて、どんな力をつけさせてきたのかを議論していく必要もあると感じた。単元をデザインする力が今求められていると思う。

2. 数学的な見方・考え方を共有させるための手立て

	「発想の源」を共有させるしかけ	数学的表現を用いた思考・交流
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業の中で無数にある「発想の源」を問い、共有することで、本時のねらいにせまることができたと思う。 ・「どうして」を説明する場面を、毎日すこしずつでも積み重ねていくことで、既習を生かしたり、説明したりする力が付くと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの共通言語として、既習の数学的表現を用いることで、論理的に考えを進めることができると感じた。 ・互いに自分の思いや考えを伝え、共有し、深めたり、高めたりすることができていると感じた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して共有させていくことが可能な時代となった。効果的な活用方法や場面について、さらに学んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的表現は、一朝一夕に身につくものではないので、繰り返し粘り強く指導することが大切だと感じた。

（文責 横山 拓也）